

## 建設産業委員会会議録

平成25年7月30日(火)

午前9時25分 開会

○小出義一委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。閉会中の調査事項について、を議題とします。前回の委員会終了後にJR半田駅前まちづくりに関するアンケート調査結果とまちづくりNEWSをお配りしておりますが、それについて当局から補足説明をお願いいたします。

○大松市街地整備課長

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

ありがとうございました。続いて今回の区画整理の対象となる地区や名鉄知多半田駅からJR半田駅にかけて賑わいづくりということで、どのような取り組みがされているか現状の説明をお願いします。

【発言するものあり】

○小野田商工観光課長

【説明】

○中川健一委員

書面でいただけるといいのですが。

○小出義一委員長

書面があれば提出願います。

暫く休憩します。

午前9時42分 休憩

午前9時47分 再開

○小出義一委員長

会議を再開します。説明の途中でありましたので、続いて説明をお願いします。

○大山商工観光課主幹

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

今までの説明に対し、質疑があればお願いいたします。

○新美保博委員

平成25年度のイベントカレンダーはありませんが、今年の予定はないということか。

○大山商工観光課主幹

あります。

○新美保博委員

平成24年度やりました、平成25年度辞めました、継続でやっています、平成25年度新規にやりました、という表がなぜ作れない、そういうことが知りたい。継続している事業で参加者数を載せれば、その事業が盛り上がっているかがわかる。このペーパーから何が生まれるのか、何も生まれない、現状が読み取れる資料を作ってください。

○小出義一委員

新美委員の発言にもありましたように現状をより深く知ることができるような資料をお願いしたいと思いますが、いかがですか。

【発言するものあり】

○小野田商工観光課長

イベントカレンダーについては可能な限り情報を掲載し、作ります。ただ、商店街さんを絡めたイベントで一部まだ不確定なものがありますので、そういった部分について記載漏れがでるかもしれませんが、分かる範囲で作ります。

○小出義一委員長

それでは新美委員からの指摘を踏まえて次に繋がるような資料をお願いいたします。

それでは他にご質疑ありませんか。

○新美保博委員

みなさんにお聞きします。半田市は賑わいが無い、活性化していない、活性とはどういうことか。何を持って活性したといえるか根拠を教えてください。抽象的に言ってもいけないが、何かイベントをやったら人が集まった。それで終わってはい決して活性化とは言えない。お金を使ってイベントをただけ、そうではない。地について長くずっと続けていける、たまたま半田には来たが、また次も来たいな、というリピーターを増やすこと。もっと言えば住みたい街にしていく、これが活性化だと思う。ただ人口が増やせばいいか、ということにもなるが、今自分たちがここでやれることはこのぐらいのことしか正直無いと思う。無理なことをやろうとすると、例えば商売をやろうとすると、利益を求めてやっている人だから、商売人の手助けをする必要はない。苦勞していいものを作って、みんなに売って、利益を出しているの、その人たちに据え膳盛り飯となるような手助けをすることは無い。何らかの形で助けないと動けない場合は助ける必要があるが、何をしたら良いか分からない。本末転倒なことがよくあるでしょう。区画整理やりました。そこで商売をやる人たちが本当にその街づくりの中でやれるのか、といたらやれないからこういうことになる。やりたいことがあるからこういう街にしてくれ、という方向になっている。今までの区画整理の方向を見ると、なんでもいいから正方形にして、さあこれでどうぞ、という風だったのでできなかった訳だから、逆に商売をやる人、そこに来る人、住む人がどういうまちがいいのか、どういう区画がいいのか。だとすると6メートルの道路はうちはいらんよ、4メートルでいいんだ、という人がいるかもしれない。4メートル道路の区画整理も考えられなくはない、難しいことかもしれないが、そこに住む人たちが4メートルの道路でいい、と言われればそれでもいい。そういう住む人、使う人の為の街づくりを今年の建設産業委員会のテーマでやろうとしている、と個人的には思っているので、その為はどういったことを調査研究して1つでも出せられればと思う。この勉強会ではとてもじゃないがわからないから、活性化について委員の方にも聞きたい。

○小出義一委員長

活性化の定義、ということですが、区画整理の目的でもあります。どのように捉えているのか、まず当局の考え方を聞かせ願えたらと思います。

○笠原建設部長

先ほど新美委員の言われたように、まず定住人口を増やす。定住人口が増えたことにより、まちは元気になると思いますので、その中でにぎわいが生まれてくるのかな、と思います。区画整理事業を行って、防災などへの対応もありますが、定住人口が増えてきますので、それに伴って需要、供給が増える。そういった活性化も考えています。

○中川健一委員

知多半田駅前の定住人口が増えた、というのは何を基準にして増えたとしているのでしょうか。

○笠原建設部長

区画整理を行う前、平成2年に着手をしていますが、それ以前の人口に比べて、今平成24年では増加しています。

○中川健一委員

平成2年の半田市の人口はわかりますか。当時より1万人くらい半田市の人口は増えていると思いますので、10パーセントくらいは増えていて当たり前だと思いますので、それより増えてなければならないと思いますが。

○笠原建設部長

中心市街地のこの区域を除くと周りは減っていますが、区画整理区域では増えている状況ですので、市全体の市街化区域の面積も増えており、区画整理事業が西部、東部、青山と、事業を進め終わってきていますので、当然その地区での人口は増えるはずですが、市全体では増えています、いわゆる旧市街地では人口が減っています。

○小出義一委員長

定住人口を増やす、ということをおっしゃいましたが、今回のJR駅前の区画整理について定住人口を何人増やす、といった目標が現時点であるのかないのか、教えてください。

○笠原建設部長

区画整理の事業計画を策定する時に、目標は面積的な話や、容積率の話はあります。地区ごとの特性によって人は変わると思います。目標人口は必要になると思いますが、現在はありません。

○小出義一委員長

続いてお願いします。

○榊原市民経済部長

先ほど新美委員がいわれたように、継続的な視点が大切だと思います。安全、便利、後は住んでいる人が愛着を感じられる街、というのが賑わいのある街に繋がると思います。

○新美保博委員

当局と対峙しているわけではないので、委員の意見も聞きたいと思います。ばらばらの意見では方向性が定まらないので、この委員会でもまとめてもらえればと思います。

○小出義一委員長

区画整理を含めた課題についてももう少し、煮詰めて、何を明らかにしていかなければならないのかを定めていくのが今日の課題かなと思います。この流れの中で活性化の定義を決め

たいと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

私としては今まで区画整理の勉強会を行い、ここに当局の考え方も地権者のみなさんと話し合ってきた内容も含まれています。これまでの捉え方の整理がされていると思います。今、課長から説明していただきました地域の活性化についてどんな取組みがされているかを説明していただいて、現状の区画整理の取り組み方を確認することができたと思います。今までの反省点を含めてこの取組み方でまちづくり、賑わいができていくかどうかを検証しながら、また、これに付け加えていくとしたらどんなことをもっと要素として考えていかなければいけないか、をみなさんからお聞かせ願えればと思っています。現状で賑わいができてくるのであればいいが、もっと検討しないと継続的な賑わいのある街にはならないと思いますので、みなさんのお知恵を拝借したいと思います。

ということですので、ここで活性化の定義を議論していただくことは有意義だと思しますので、意見があればお願いします。

○新美保博委員

賑わいは活性化からきているだけで、もともと賑わいをやりたかったのか。今日は何をやるのか。現状の整理と把握がされればいいのか。

○沢田清委員

現状を聞いて、名鉄知多半田駅の区画整理を説明してもらった。今後JR半田駅前についてどのように区画整理を進めていくかを説明してもらった。それを聞いて、いいのか悪いのか、あそこをどうしていこうということを話し合うということですよ。

○小出義一委員長

今の活性化の定義についてみなさんがどう思っているのか、大事なところですのでご意見があれば聞かせていただきたいと思いますが、1つ私がここで名鉄知多半田駅前の区画整理、時代が時代でしたので、区画整理をして何を求めるのか、区画整理後に何を見出すのかということが27年前は十分計画せずにやってしまったのかなと思います。それを踏まえてJR駅前の区画整理についてははっきり目標定義を持ってやっていかなければならない、と思います。先ほど建設部長に人口を増やすといっても目標はあるのか、と質問をさせていただきましたが、何を賑わいとするのか、居住者を増やすことも、市内外から来ていただくことを増やすことも賑わいですから、まずどういった街づくりをしていくのか、ということは今日お聞きした手法の中で、賑わいができるのかを確認していくことが第一段階、そして不足していることがあるならば、他市の実践している取り組みを勉強しましょう。いろんな視点があると思いますので、それを整理したいと思います。

○沢田清議員

宿題はどうなりますか。

○小出義一委員長

行きたくなる街ということで、こんな活性化を考えている、という委員の意見を既に出していただいていますので、その説明をいただくようにしましょう。それを交えて委員の方の

活性化、どんな風に考えているかを説明していただければと思います。

私は西郷真理子先生の資料を提出させていただいています。西郷先生は一昨日テレビで石巻市の開発が取り上げられ、着目して調べています。石巻市は特殊な事情はありますが、既存の街の中でどう活性化していくのかという視点で実績のある方とお聞きしていますので、委員会として調査研究をしていけたらと思い提案しました。主な対象は高松市の丸亀商店街、長浜市、焼津市です。それぞれの商店街が活力を失っていたものを再生し、また、商店街同士が連携を取って、情報公開をしながら取り組んでいる点に興味がありました。先生は、全体感を持って街づくりをどうしていくかという視点で取り組んでみえました。前回、景観について中川委員からご意見いただきましたが、愛着がわくような、ということで、どう愛着をわかせるかということもこの街づくりの手順を踏まえた取り組みをされていて、その事例もあるということでした。今までの区画整理行政が、地権者の意向を踏まえながら、面整備をしていくことの中に、どう活用していくのかということを確認をしていくことを手法として進めていきたいと思っています。

#### ○沢田清委員

私はアンケートを踏まえて、ということでしたので一度見てみますと、市民の多くは商店などが少なくなり活気がない、賑わいのないことに不満があると感じました。しかしながら、災害対策や自然環境などに配慮し、トータルで考えてほしいという意見がたくさんあった。というところから、行ってみたいまちなみについて賑わいのある街はコンパクトにして、そこを一步でたら歴史のある街並みがあって、運河に繋がるイメージを考え、これを提出しました。ようするにリピーターになる、一度だけでなく何度訪れても飽きがこない、そんな街になればと思います。

#### ○中川健一委員

私はここにかいてある通りです。基本的には歴史的な遺産を尊重し、現在へ生かした街並み、古き良き半田があるというような街並みにJR半田駅前がなったらいいのかな、と思います。住んでいる個々人の人達が誇りを持って住めるということが一番大事であり、そういうことが分かると観光客の方達も脚を運ぶようになるのだと思います。JR半田駅前の区画整理はやらないのが一番いいと思います。結局街並みを壊すわけですから、全否定です。区画整理をやれば、ここに書いてあることがみんな無くなります。先ほど小出委員長が言われていた丸亀商店街の話も、みんな無くなってしまう。もともと半分くらいをやるだけで、残りの半分がどうなるかについては説明がないのでよくわかりませんが、区画整理をやらないのが一番。やれば知多半田駅前みたいになるから僕はやめてほしい。まちづくりNEWSの12を読んでいただければ、活性化はそもそも鉄道高架や区画整理をしなければならぬのか、という考えに賛同します。僕は逆にJRが高架化されれば人の流れが増える、これにどんな根拠があるのか。きっとないですね。だから僕はやめるべきだと、その上で現在の街並みがある程度守りながら小規模の改善をどんどん進めていくと、そういう街づくりをやらなければいけないのかな、と思います。ちなみに世界の勉強をしていくとエルサレムに行ったことがあるのですが、旧市街には古い街並みが残っています。だけれども旧市街では住みにくいし、新しく人口が増えるには必ず横に新市街があります。名鉄知多半田駅前は全く新し

い街、新市街になっていると思います。でも、J R半田駅前まで新市街にする必要があるのか、と考えると、僕はそんな必要は全く無いと考えます。なぜこんな時にJ R半田駅前まで区画整理をする目的、理由がさっぱりわからない。世界的な街づくりから考えても、いったい何をやっているのだと思えてしまいます。以上です。

○小出義一委員長

住んでいる方がさびれていると感じていることもあって、これは住んでいる方だけでなく我々住んでいない人がなんとかすることはできないか、と思いますがこの点はどう考えますか。

○中川健一委員

例えば犬山市は区画整理を行いませんでした。道路を造るのをやめて、現在の街並みを守るようにして、今街づくりをしています。あれをさびれている、すたれていると見るのか。もしかしたら都市計画道路を造るのをやめたときは、多少さびれていたかもしれませんが、自分たちが誇りをもっている街並みをつくれば観光客は増えてくると思います。犬山市を見ても建物の色を合わせ、新しい建物もそうしている。黒っぽい壁や屋根にして、街並みの雰囲気合うような色にしてあり、いい感じにリノベーションできているな、と思いますが、そういうことは僕は可能だと思いますし、日本中にそういう事例はあると思います。

○小出義一委員長

区画整理と街並みと分けて発言してくれたんですが、街並みを整えて、連続性のあるものを造っていくことが大事である、ということですね。

○中川健一委員

はい。区画整理にもいろんなやり方があると思いますが、区画整理をして今の街並みを上手に維持するやり方で整備をするということであれば、検討の余地はあると思いますが、基本的にそうではないのでは、知多半田駅みたいになるのでは、と思います。

○小出義一委員長

まちづくりNEWS 8号、アンケートにも載っていましたが、J Rより東の地域は歴史的な景観を重視した街づくりをすとありました。これは順守すべき項目と捉えているのでしょうか。

○笠原建設部長

街並みの誘導は知多半田駅前とは違うものだと思います。知多半田駅前には新市街地、J R半田駅前には旧市街地で半田運河や蔵、知的施設も多いですので、そういったものは当然守らなければならない。

○中川健一委員

どういった建物を区画整理した後に建てるのかという点は、市として明確にすることができない訳ですよ。そういったことは地権者に言ってあるのですか。

○笠原建設部長

地権者の考えになります。ただそれに対し、市がどこまで誘導の中で踏み込んでいけるか、後は歴史的建物に対する補助金だとか、そういうことも加味しながら考えていかなければならないと思います。

○小出義一委員長

補助金は今どうなっていますか。

【発言するものあり】

○柘植都市計画課長

景観補助につきましては景観重点地区につきましては、建物を新築する場合180万円限度額で補助があります。ただし、対象となる経費につきましては景観に配慮したグレードアップ分です。その経費に対して45パーセントが補助金の対象となりますので、180万円の上限でどれだけやれるかは設計内容で変わってきます。

○笠原建設部長

これはあくまで既存の建物の中ですので、区画整理の際に建てられる建物について、どういった支援ができるのか、街並みを誘導する建物の色、建材といったところにも考えを若干入れていかないと難しいかなと思いますので、これも検討していきたいと思います。

○小出義一委員長

今、整理できていない部分があるということですか。

○笠原建設部長

土地区画整理事業で建物を移転していただきますので、その移転をしていただいた建物で新たに建てる建物が街並みを変えてしまう、といった中でどういう建物を建てるかということである程度規制と支援を考えていかないと難しいのかな、と思います。

○小出義一委員長

中川委員、発言はよろしいですか。

○中川健一委員

結構です。

○榊原伸行委員

私はJRの高架とか、駅前の区画整理がいつになるのかが決まってからいろいろ考えた方がいいのか、今あるもの、ここにイベントカレンダーがありますが、あまりにも商店街が地元住民とのコラボレーションになっていないというのが大きな問題点ではないかと思えます。今から、人を集める一過性ではないイベントを打ち出して、地道にやりつつ区画整理を待つ、ということをやっていないと、区画整理をやったら人が来る、というのではあまり良くないと思います。また、盆踊りなどは除いて、昼のイベントが圧倒的で、大人の夜のイベントもたくさん入れた方がいいのではと思います。以上です。

○鈴木好美委員

私は先ほど委員長も言われました丸亀町グリーンの資料を提出しました。お金があればこんな風に屋根もつけることができ、いいなと思いました。なぜかという去年5年に一度の山車まつりの際に実施されたアンケートと今回のアンケートを読み比べて、人が集まる場所というのは活気がなければならぬというのがありました。もちろん高松市は半田市に比べて倍以上の人口ですので、そういう意味では地域の方々が自転車でひょっこり来て、みんなが自由に集える、また、先日いかだレースの時に僕は名鉄の駐車場に車を止めて、いろんなことを話しながら歩いてきたものですから、確かに名鉄からJR半田駅にかけ

ては発展している訳ではないし、店がたくさんある訳ではないし、JRの線路をくぐっても古い家があるだけです。じゃあ、どうしたらいいかと聞くと、なにか改善は必要だと、ということは魅力あるものにするには何かを造っていかないと、5年に1度の山車祭りをやれば店ができて、人が集まってという雰囲気というのは、何か感じます。10年20年かけて行政がどこまで地域の方、商店街の方と話し合いをしながらいいものを造っていくという、そういった観点で、今回サンプルとして私は丸亀町を出したわけですが、要は地域とコミュニケーションがとれる場、いかに高齢者がここに来ることができるかということをイメージしていかないと、ただ、お金をかけて立派なものをつくれればいいというものではない。可見市や長島のアウトレットもただ店だけの評価ではなく、半田市にはミツカンがありますので、健康ブームで健康食品などありますから、そういったものを活かしてやればいいのか、高齢者が自転車や徒歩で集まれる場所があればと思います。以上です。

○小出義一委員長

その他にありませんか。

○岩田玲子副委員長

私は今回提出していませんが、行ってみたい街並みというのは2か所あります。倉敷市と長浜市です。単純に私が好きな街ということもあり、提出はしませんでした。まず、長浜市へ私は何度も言っていますが、その中でも、長浜城があるのはもちろんのこと、その周りの商店街へ行くとガラス細工が造れたり、ガラス製品を買ったりすることができるという特徴があり、それが魅力の一つで何回も行っているのだと思います。ここはいつ行っても活性化されていて、とてもいいなと思います。地域の街並みも半田市と同じように蔵のある街並みを生かしているところもあり、特色も似ていると思い、例を挙げました。倉敷市もそうですが、石畳があって、地域の特色となるガラス細工のお店が並んでいる、ということが魅力のあるものがある、ということだと思います。私は近所からも遠くからも人が集まるような魅力ある街並みが、活性化され、行きたくなる街だと思います。倉敷市も長浜市もなんでもあんなに混んでいるのかな、というくらい混んでいますので、その魅力を研究するといいと思います。

○新美保博委員

今年の視察は、特段見に行くところはないと思っています。よその街を見たから、半田市ができるという話ではないので半田市がどう考えるのか、半田市のこの地域の人がどう考えているか、で答えは出ると思います。改めて見に行くところはないかなと思い、提出もしませんでした。単純に観光で売ることなのか、倉敷や長浜は地権者ではなく、観光客が増えている。観光客を増やす方策としてやっていくのか、そうではなく、定住者を増やしていくのとは違うと思う。じゃあ観光はなくてもいいのではないかな。観光を増やしてリピーターになってもらい、何度でも来てもらう。そこで人口12万人の中で一時期20万人になったり、プラスアルファの要因は観光では生まれてくると思う。実際に税金を落とす人は定住者を増やさなければ持続はできない。見せるものが半田市では赤レンガ、ちょうちんなど売っているが、そんなものはすぐ飽きられてしまう。例えばそれが見せられる観光なのかということ、これはまた違ったことだろう。アクセスの問題も出てくるだろうし、観光で訪れた人に満足させる



為にはいろんな手立てを打たなければならない。これが1つの法則だと思う。定住者を増やしていく、半田に住みたい街にするというのとはまた違う。今このテーマを考えていく上で定住者を増やす為にどうしたらいいかと考えると、どこの町がいいのかなということになると思います。別に観光客や商売のことを思っていない訳ではなく、冒頭に言ったように住んでいる人たちがどういう風に自分たちの街を考えるかだと思う。いくら開発しても運河を潰す、という話ではないでしょう。そんな計画には絶対なりえない訳だから、あの人たちがどういう街がいいか考えてくれないと、今までとは違ったやり方かもしれないが、そこに行政がこういう風にしたいから、こういう街にしよう、と整備の土俵を造る。こういった段階を目指してやった方がおもしろいのかな、と思います。そういう意味で視察に行くところはないし、行ったところで意味はないと思う。観光客としてでしか行けないと思うのでネットなどで調べればよいと思いました。

#### ○小出義一委員長

定住者を増やす、賑わいをつくる、観光客が主体ではないとも思います。あくまで住んでよし、というところが出発点だと思いますので、そういう意味で観光地ではなく、地域を主体とした事例が他にあれば、研究の一端として意味があるのかなと思いますが、その点いかがですか。

#### ○新美保博委員

活性化したところがありますか。例えば高松市はシャッター街はそのまま残っている、その経過を見にいてもいいが、電話一本でもわかるのではないかな。まず、観光について。観光がなくてもいいとは一言も言っていない。観光も絶対いる。よその人が来てくれてお金を落としてくれないとこの街は潤わないのは間違いないのだから。でもここでご飯を食べ、何かを買ってくれる、これはプラスアルファだから、毎日買ってくれる人なら、そのような手立てをするから。長浜市などはよその観光客を毎日バスで連れてくる、そのようになるから。だが、半田市はまだまだそこにはなりえないから、プラスアルファはそれで置いておく。しかし、重要な問題だよ。逆に言うと来てくれた人が良かったねと満足して帰れるかどうか。またもう1回来たいねと話してくれるかどうか、それがキーだと思う。そこに住むか、年に1回、月に1回、遊びに行くにはおもしろい街だと思うが、住むにはやだよなあ、臭いもんね、という話になる。臭いというのは決して牛だけでなく、酔も含まれます。匂いがないところから来れば臭く感じる。交通の便も悪いし、ちょっと休憩するところもないよね、となる。子どもが住んでも子どもたちが散歩するところがあるか、公園があるか、この炎天下で子どもを連れて公園で遊べるか、と言ったら無理な話で、住むところではない、となってしまう。確かに半田市はインフラが悪いかもしれないが、子育てなど他の面で今住んでいる街より充実している、というのだったら、たぶん変わるだろう。それをどう切り替えていくかが大事なのであって、ちょっと話は変わるのかもしれないが、街並みだって、今の山の神辺りは塀がぼろぼろになっても知らん顔で、今の壁がいいのかきれいな壁がいいのかといたら誰が見てもきれいな壁がいいのであって、新しい家が一番よく見える。住んでいる人たちが掃除もしない、野良猫がいっぱい住んでいるそういう街でいいのか、と言ったらそうではない。そういう所を踏み込んだ方がいい。個人の見解の話だから、JRの高架をすべきだと

考えている人、やらなくていいと考えている人、区画整理をすべきだと考えている人、やらなくていいと考えている人いるが、やり方が問題だと思う。やる事が決まっているなら、こういうやり方はどうだ、あれはどうだと言った方がいいと思う。やだやだと駄々をこねても仕方がない。

○小出義一委員長

暫く休憩します。

午前10時40分 休憩

午前10時50分 再開

○小出義一委員長

委員会を再開します。休憩前に引き続きどんな街づくりをしていくか、イメージのすり合わせをしていきたいと思えます。区画整理をするかしないか、JR高架事業をするかしないかというのは、少し話がややこしくなってしまうので、その前段階、どんな街づくりがいいのか半田市として愛着、誇りをもって住みやすくという視点から、何を重視したらいいかというのが重要だと思えますので、勉強会の中で歴史と景観を大切にということ意見をだして思えますが、具体的にどんなものを造っていかなければならないか、ということで、少し疑問があります。というのは、蔵の街とって、蔵が紹介されていますが、由来やどのように使われてきたか説明もなく、ただ単に蔵がありますよ、ということだったりするものですから、どんな街、歴史を重要視したことで、何を大事にしているかという共通認識がないような気がしますが、その辺りもどんな街づくりをするかというところでみなさんがぼやっとしているところなのかなと思えます。当局の認識も教えていただければと思えます。

○小野田商工観光課長

歴史と景観についてですが、蔵の街と私どもが総称して言っているのは、ミツカンの蔵、中埜酒造の酒蔵などがあり、産業系の蔵というのが基本になっています。その産業の蔵の歴史とそれに付随する商店街が、もとは一体的に発展してきた歴史というのがあります。産業がありますので、そこで働く方が接待など産業交流の場として、料亭などがあの地区には集中して栄えました。料亭があれば料亭の土産用となる和菓子屋さんなどが近くに集まる、というのが他の地区とは違った産業構造的な特徴だと思えます。つまり、もともとの地場産業と商業がリンクしているのがあの町の本来の歴史と認識しています。

○小出義一委員長

ありがとうございます。中川委員は資料にも書いてありますが、どういうところを評価していけばいいと思えますか。

○中川健一委員

僕だったらどうやってやるか、という意見で言わせていただきますと、例えばJR半田駅前ですと松華堂とか、末広などの風情のある建物が残っていて、できればああいう雰囲気なるべく統一できるように街並みを造って、修繕していければいいのでは思えます。それで、その先に古い建物でJR半田駅がありますので、そこを活かして街並みをがんばってつくっていくというのが一番いいと思えます。もう1つ、僕は見たことはないのですが分らないです

が、新川を復活させて柳をいれるということが、意見として出ていますので、もし、せせらぎみたいなものができるならば、それはとても素敵だと思います。そうすると小栗邸や半六邸に繋がっていくわけですし、酢の里もありますので、そういう方向で街を造っていけば、50年、100年たった時にかなり街のコンセプトが似てくるのではと思います。

○小出義一委員長

ありがとうございます。中川委員の意見も踏まえまして、他にご意見あればお願いします。

○新美保博委員

何を言えばいいのかが良く分からない。委員長が何を求めているのかも良く分からない。このエリアに関しては鉄道高架と区画整理をはずしては進まないと思う。いずれはそこに手をださなければならない。例えば、高架をやったついでに区画整理をやっていくのか、いずれはやるかもしれないが高架は別だ、区画整理は別でやるよと、ただ、その区画整理も今、言っていることであって、やり方はいくらでもある。一番簡単なのは全部取っ払って野原にしてしまうことだけれども、これはできない。玉突きでやっていけば時間がかかる。それでもやっていくのか、ある一部分だけ残して他は変えていくのか、これもやり方だと思う。やり方はいくらでもある。だけど、今の街並みでいいと思っている人が誰もいないとするならば、何かをやっていないかなければならないと思う。そこを抑えられるかどうかだ。今の街並みでいいという人もいるから、そこをそうじゃないよと、こういう街並みがいいから替えたほうがいいよ、と意見を一致させていかないと、建設産業委員会として、行政として閉会中のテーマについてどういう方向性を持たせることが一番大事なことであって、今までのような区画整理をやる。これは今年度立ち上がった時に言ったと思うけれども、名鉄のあのやり方ではだめだよ、ということが出発点であるなら、造ってからさあどうぞ、という風でなく、何かやりたいことに応じて街を変えようよ、ということが大事だと思う。具体的に言うと末広を残していく、となれば、他にも動かせないものはいくつかあると思うので、ここは抑えなければならない、動いていいところと行けない所はでてくると思うので、その仕分けはしなければならない。現実になくしていいと言われた人からすると、なぜうちはなくしていいのかと言われることも出てくるから、そこは地権者が招致できるかどうかです。とういうことは新川通りにでぶちゃんという居酒屋があって、あの店が辞めてからライブハウスみたいになりました。オーナー兼演奏もしている人はアマチュアで全国2位になった人だそうです。あの古民家はお客が少ないかもしれないが、再生している。

そういうやり方もありだと思う。ただ、山の神で、ああいう景観を残したい時に新川にJUS半田みたいにどかんとできて、ふつうはあり得ないと思う。今までの半田市のやり方は、全部造らせていてなんでもありだった。今の現実がある。例えば景観条例などであのエリアだけでも縛って、黒塗りでも板塀でもいいから、ちゃんと縛りをして、でない造らせないぞ、という風でもいいと思う。先ほど休憩中に話があったが、4メートルの路地裏のような道路を造ったっていい。そこに飲み屋が並んでもいいと思う。ただし、火事が起きた時は消防車が通ることは承知してもらわないといけない。というぐらいのところでもやっていいと思う。こんなことは少なくとも自治体では初めての取り組みだと思うし、前にでた話ではパティオがあったが、パティオを造ったところもあるけれども、全部をパティオにするわけで

はなく一区画で黒看板を付けて今日のランチの案内をるところもありだと思ふ。そういう街づくりをしたらどうかと、地権者と話をすることが大事だと思ふ。アンケートや資料をもらったが、これは今までの話であって、今からやることだと思ふ。今までのことは今までのことでいい。何一つ成り立たない話だから、成り立つように方向性を定め、そこで行政はなにができるか、地権者はなにができるか。問題は地権者がやらなければならないと思ふが、地権者がやっていたのでは進まない、誰かがこうやる、という引き出しは開けて、それを選べるようにするくらいしかできない。それが半田市の歴史だと思います。建設産業委員会で平成25年度の基本的な方向だけ決めておこう。

○小出義一委員長

ありがとうございます。街づくりの考え方で、半田らしさを追及していくところは大事だと思ふのですが、その前に、区画整理ということにこだわってしまつてはいけないと思ふますが、新美委員の言われたように、名鉄知多半田駅前前の区画整理と今のJR半田駅前前の区画整理と比較して、どう変えていかなければいけないか、結果をだしていかなければいけない部分があるかと思ふます。そういう意味で行政がどう関わっているのか、関わっていくのか、というところが今回の整理しなければならない課題の一つだと思ふます。当該地区は高齢者も非常に多いので、地権者に任せるのは、地権者にエネルギーがそれだけあるのかという問題もあります。地権者に高齢者が多い場合は会社を起こして、地域活性をしている事例もありますので、いろんな手法を研究しながら、地権者どう関わっていくかも整理していく課題の1つだと思ふます。2つ目は取り組んでいく上で定住者を増やすということが基本にないといけないと思ふます。定住者が増えるということは住んでよし、と思える愛着がわくものをつくっていくということで、そこに来訪者が来るようなプラスアルファで考えなければいけないと思ふます。そのしかけが何なのかというのが2つ目のテーマだと思ふます。3つ目はその辺りをつなぐ景観の問題であると思ふています。みなさんの話をききながら、大きくはそんなところではないかと整理しています。皆さんのご意見を伺いたいと思ふます。いかがでしょうか。

○新美保博委員

話が戻るようで悪いけど、ここから何が生まれるか、要は、あの辺りに住んでいる人たちは今、あの場所に不満なのか。満足しているとは思わないけれども、不満があつて、なんとかしてくれと言っているのか。

○大松市街地整備課長

アンケートを要約した私どもが感じているところとしては、不満をもっている人の方が多数である、なんとかしなければいけないと思ふているという住民の意見がこのままでいいと思ふている住民よりも多く、将来の街づくりの方向として、安心安全や、賑わいを求める声が多数あつたと捉えています。その為の基盤整備をしていく必要があるかと考えています。

○新美保博委員

具体的に聞きますが、不満と言うのは、ゴミステーションが家の近くにない、程度の不満なのか、ほんとに不便なことがあつての不満なのか。何が不満なの。

○大松市街地整備課長

生活をしていくのに不便という意見が多かったように記憶しています。例えば買い物をする所が近くに無い、古い家が多くて、何かあった時には心配、という声もあります。そういった地域の今の状況を憂いている声が多かったように思います。

○新美保博委員

そうするとそれは地域の勝手ですよ。買う所が無くなった、というのがその地域の人が買わなくなったからだし、地でやっている小売店がつぶれているのは地域の人が守らないから、そこで買わずによその方が安いとあって、別の店に行くから潰れてしまう。それで困っているのだから、今聞いているのは勝手な不満のように聞こえます。あの家が古いから心配というのは持ち主には言いにくいから、不満になっている。これを採り上げていいのかな、と思う。これはこの地域での街づくりではなく、半田市全体の中で街づくりをしないとけない。J R高架と区画整理を踏まえたなかの街づくりが話としては早い。

○小出義一委員長

基本的にはそこだと思いますが、J Rの高架化が実現して、便利になって、住みやすい空間も条件としてでると、そういったこともプラスの要素として今の環境だけでなく、将来に向けどうしていくのかをこの委員会で捉えていきたいと思います。開発していくという方向性の中で議論を進めたいと思います。

○中川健一委員

区画整理はやらなくていいと部長たちは思っていると思います。ただ、J R高架化をする為には区画整理をしなければならないから、これだけ出資をして、とりあえずやることになっているのが実態だと思います。地元で困っている人がいるかと言えば新美委員の本質的な質問の通りで、地域の問題なので、解決したければ自分たちのお金でやればい訳です。でも、区画整理をしないとJ R高架化ができないという条件だから、こういうことになっていると思います。

○小出義一委員長

もう一つはこういったきっかけを得て、活性化しようという取り組みがないと、ずっとさびれたまま、それを放置することになってしまう、というのもあると思います。

○中川健一委員

それは認識が少し違うと思います。先ほどの犬山市も黒壁にするなどして、もともとはさびれていたところを、今の街を保存しながら街興しをしようとしてやっている訳ですから。区画整理が答えではないと思います。

○小出義一委員長

区画整理はきっかけになると思います。どういう街にしようと思えば描かなければいけない。ただ機械的にやるものではないと思います。

○沢田清委員

また区画整理とJ R高架化と街並みが一緒になっていますが、先ほど新美委員が言われるには、一旦切り離して考えようと、共通認識をしたのでゼロベースから考えようといったところで、また今話がいろいろ出ています。具体的にいつから始まるのですか。

○笠原建設部長

今の予定ですと、区画整理、J R高架化について平成26年中に都市計画の決定を済ませたいと考えています。その後、平成27年度事業着手という予定です。

○沢田清委員

それがあるからやっ払いこうというのは、話がぐちゃぐちゃになるから整理して進めましょう、というのか、平成27年度からなので、この年に建設産業委員会としてこれを踏まえた話をしていこう、というのかをはっきりしないといけない。ここからは僕の意見ですが、半田らしい街並みとはいったいどういったものなのかを共通認識させることを主役としてこの委員会を進めた方が提言をしやすくなるのではと思います。

○小出義一委員長

基本的には区画整理があるというのがきっかけなので、ないがしろにはできないと思いますが、あまりそれに振り回されてもいけないと思いますので、沢田委員の言われるように半田らしい街並みはなにか、先ほど私も蔵の扱いを尋ねましたが、そこに共通認識がないままこの話を進めても難しいと思いますので、その点について皆さんの考え方を聞いてみたいと思います。

○沢田清委員

歴史は残すべきだと思います。残すには、運河など現に残っているところをどう保存していくか、さっき公園の話もでしたが、子どもを連れて遊びに行くのに日陰もない。黒壁を見て、その流れの中に、パティオでなくても、休憩する場所を、というイメージでした。それには駐車場もいりますが、僕は名鉄側に駐車場をつくるといいと思っています。車で来る人はJ Rと名鉄の間に車を停めて、歩いて来ればいい、車が無い人はJ Rや名鉄で来る。歩いてもそんなに距離はないと思うし、その間に商店街ランブリングタウンが活性化すればいいと思う。人が来ることによって活性化するのは。車が停められなければ人は来られないので、僕のイメージでは車を停めて、商店街を歩いてきてもらい、蔵や半六邸を見てもらう。それにより半田の文化や歴史に触れてもらえるようなものになればと思います。

○小出義一委員長

ミツカンの酢の里と国盛がありますが、企業の博物館なのでミツカンさんのなかにマンサンさんがこの辺りに新田開発して、酒造りを始めたという歴史は紹介されていない訳です。海運業がどれくらい栄えて、ということも紹介されていない。

○新美保博委員

みんなの意見を聞きましょう。

○榊原伸行委員

私はJ R半田駅前の整備を行政が主導でやるのか、地権者が主導でやるのか、はたまたシンクタンクに依頼してやってもらうのか、その辺りのことを研究してはどうかと思います。

○鈴木好美委員

今回、どういう街並みがあるかという宿題があって、僕はこれを選びましたが、景観で言うと、J R半田駅に植木はないし、写真を撮る人から見て、名鉄から下ってくる間に、写真を撮りたいと思える場所がありません。運河なら運河、ミツカンならミツカン、その部分だけは歴史情緒あるが、街並みとして何度も来てみたいと思えるように、人が集える場所が今

回のテーマになると思います。

○岩田玲子委員

半田らしい街並みについてですが、それに関して言えば蔵を中心にした街並みづくりだと思います。半田運河沿いの雰囲気を中心に街並みを作った方がいいと思います。賑わいのある街づくり、行ってみたい街というのは、新美委員が言うように路地裏なども重要になると思いますので、そういった観点も含めた街づくりが必要なると思っています。

○新美保博委員

やれるかやれないかは別にして僕が思うのは車を入れない、近場において、後は歩いて散歩してもらい、お腹が減ったら食事をする場所、喉が乾いたらお茶をする場所、駄菓子屋へ行って、そういう遊び心のあるブロックがあってもいいのかなと思います。まず半田の人が遊びに来る、近いから何度も行ける、遠くから見の人が赤レンガなども見ていこうか、といって1泊してくれたら最高だと思います。自分たちが住んでいいところ、暮らしやすいところでないとは勧めないし、自分が住む気にもならないので、そういうところはあってもいいのではと思います。今、タイミングとしてJRの高架化、区画整理やろうとする時期だから、全部はやれないにしても、とりあえずここでやってみて形を作ってみる。そうすれば次に他でやるときにはやり方を変えたり、改善できたりするところはしていけばいい。同じことを続ける必要はない。そのことをみんなが承知していないと、てんでばらばらの意見ではまとまらない。遊び心はあってもいいと思う。そういう先進事例があるのなら、そこを探して見に行ってみたいと思う。

○小出義一委員長

それも愛着を感じる街の1つですよ。地権者が高齢化していることを考えると地域の活力にどこまで期待できるかというのがありますが、地域がいかに関心を持って自分たちの街に対する愛着を持って街を活性化していこうという気がないとできない。その為には商業が活発、自由にできるような仕掛け作りも必要だと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

先ほど伸行委員も言われました意味での取り組み方の先進事例がないかと思っただけの西郷先生でしたが、他にもそういった取り組みをしている方が見れば参考になるのかな、と思っています。

○沢田清委員

先ほど伸行委員がいわれたのは進め方について、行政なのか、地権者なのかというところで、新美委員が言われたのはその先の話であって、当局にこのアンケートでどう思ったのかを聞いたのだと思う。それでわがままな意見しかない市民の意見は聞いておれん、となった。だからこう思う。という話をしたのだと思う。僕も新美委員の意見に賛成で、住民の意見を聞いてやるのであったら、まず住民の意見を聞いて、やらなければならないし、先ほど委員長が言ってくれたのはJR高架がある、区画整理もしなければならない、という中で、今後どうしていこうという風に今回始まったんだよ、とするならば、ここがどういう風にしていくかを考えればいいと思うので、僕は地権者も大事だけれども、賑わいがこれば喜ぶと思う

ので、その為にはあの一角には半田の歴史があって、中心市街だと思っているので、伊勢市のおかげ横丁のような横丁をあの辺りにつくってはどうかという意見だと思う。伊勢はすぐく人が来る。メインに伊勢神宮がある。半田にとってそれに何ができるかは考えていけばいいと思う。横丁をメインにしていけばいい。そうする上で、住んでいる人が何に困るか、それは聞きに行っても言いと思う。でもまず、ああいう横丁をイメージして常に賑わいがあるというのが、頭にあるんですけどね。

○小出義一委員長

さっきの事例の中に、ずいぶんさびれてしまった商店街を活性化したという事例があったって、要は自ら解決していくエネルギーが失われかけているものをなんらかの力で再生できたらいいので、それが商店街の枠組み、主体と同じ話でした。

○新美保博委員

区画整理のやり方を地権者で集まって組合でやる方法と、半田市とあるよね。組合でやるとうなるの。

○笠原建設部長

組合でも可能だと思いますが、ただ事業費は市、県、国からでますので、組合がやって、お金は市、県、国からだすことはできなくはないと思いますが、今まで半田市がやってきた組合施行というのは事業主体が市になるか組合になるかという話になると思います。それが、今新美委員が言われたのが、まちづくりNEWS 9に掲載されています彦根市の四番町スクエアになります。ここが実際に施工は組合がやっていますが、事業費は公共団体です。ここをまちづくりNEWSで視察をさせていただきました。

○新美保博委員

市、行政がやることは整備不良を起こしている訳です。ましてや地権者がやるなんて無理な話だと思います。今の生活がいっぱいいっぱいで、周りのことに構ってられないのが現状だと思います。地権者がやらなければいけない、と良く言うのは自分の土地だから、建物で自分の商売だから、それは当たり前だと思う。でもそれができない人はそういう仕組みに乗っかるしかできない。でもそこで文句ばかり出してしまうと進んでいかない。そういう現状があると思う。行政が何をやるかという、こういうやり方があるよ、ああいうやり方もあるよ、と選択肢をだして、責任を持って選んでもらう。お膳立ては半田市と言う街を考えた時にやらなければならない。好きにやれ、とはならない。そういう時に、プロパーが入ってやる、例えば三菱地所だとか、専門で街づくりをやっているところに入ってもらって、予算とどんな街にするかを伝えて、それを地権者に伝える。そういう仕組みができれば、ちょっとおもしろいのではと思いついてみました。そうすると、地権者の勝手にはできない、地権者も半田市には文句をいいやすいが、第三者がそれをやると言えば、なかなか言いにくいと思います。そういう強さもあると思います。半田市が決めるのは全体のことで、区画整理の範囲、予算、そういう手立てはないかと思えます。

○小出義一委員長

第三者による開発事例はあるのですか。

○新美保博委員



知りません。

○笠原建設部長

基本的に、民間が入ってやるのは再開発になりますので、地域を決めて、土地を集めてビルを建てて、その床でもらう。あとは売って、事業費に充てる、そういった形が多いと思います。区画整理に直接入ってくるという話は聞いたことがありません。あくまで、先ほど新美委員が言われたように地権者の意識は市だと文句がいいやすい、という意識があるかもしれません。組合は地元の人になりますので、文句も言いづらいし、民間の考え方が入ってくると思います。しかし、事業をやろうとするとなかなかそういった方が見えない、そこまでの時間、ノウハウがないので、非常に難しいところもあると思いますが、この四番町スクエアではそういう方が見えて、組合を設立して、当然市は支援をしていますが、やられたということです。

○新美保博委員

再開発事業だとJR高架に影響があるのですか。

○笠原建設部長

知多半田駅前も区画整理の中で、一体施行という形で再開発を行っていますので、あくまで手法ですから、区画整理内で何をやるかは別ですし、区画整理外でも再開発事業できますので、それは別です。

○小出義一委員長

誰が主体となってやっていくのかという枠組みの研究から入っていくというのも重要な要素の1つかなと思いますがこの点いかがでしょうか。

○新美保博委員

重要な要素ではない。この委員会では主体はここで、あくまでも建設産業委員会が主体となって、行政がやるとしたらどの様にやるのか、という時に従来通りの区画整理でやるのか、再開発事業でやるのか、それを提起する、その時に相手方がいいよと言えばそれでいいし、もっと違った方法があるなら、それでもいい。

○小出義一委員長

どのようにして街づくりを進めていくかについての手法はいろいろあると、進め方の枠組みづくり、そういう点について事例を研究しながら、如何に地域の力を発揮させていくのかという視点で研究していくのも大事だと思いますが、いかがでしょう。

○中川健一委員

JR半田駅前の街並みをどうするか、ということをおみんなで考えて、それで区画整理をやらなければならないところと、区画整理が今のところ関係ないところと両方ある訳なので、そこは分けて、区画整理が関係ないところは、先ほど保博委員が言われた景観などに配慮できるような条例などを設けて、その代り補助金もきちんと出すということにして、街並みを作っていきますよと、区画整理のある地域については知多半田駅前のようにするのは困りますので、具体的にこうしてくれとだしてやる。そういうプランニングをおみんなで考えたらどうでしょうか。本当は地元の人が考えるのが一番いいと思いますが、残念ながらそこまでの力はないし、かといって役所任せで知多半田駅前のようにするのも嫌だから、横車をいれて

しまうような感じはあるかもしれないが、議会からの意見として言うことはいいかなと思います。全体の街並みのことを考えて、プランを作る、その為に参考になるところを見に行く、という風でどうでしょう。

○小出義一委員長

中川委員から提案がありましたが、共通する部分はあるが、区画整理区域とそうでない区域それぞれ提言をしていく、1点目は区画整理区域の課題については今までの経験、反省点を含めて取り組み方について、しっかり提言をしていくべきだ。2点目は全体について景観を重視しながら半田らしい街並みをどうつくるか。これら2つの要素を研究していこうということでもいいですか。この意見についてなにかありませんか。

【発言するものなし】

○岩田玲子副委員長

さっき新美委員が言われたように、区画整理をやるべきなのか、再開発をどこかに任せてやった方が半田らしい景観を重視した街づくりができるのか、その辺りも考えた方がいいと思います。プロが再開発した方が、半田らしい街づくりができるというのも一理あると思いますので、どこが主体でやるのか研究の対象になるのではと思いました。

○小出義一委員長

それは中川委員もいろんなくくりの中で半田市内外の力をどう導入したらいいかということ言われていたと思いますが。

○中川健一委員

同じ意見です。

○笠原建設部長

半田らしい街並みという話から少しずれていると思いますが。再開発事業をやりますと大きなビルが建ちますので、景観上どうなのかなと思います。例えば地元が意識を持ってやるということで組合施行はあるかと思いますが、再開発事業となると全体のイメージが変わってくるかと思っています。半田運河からJR半田駅前まで半田らしさの街並みを見る中で区画整理の中ではどういった支援ができるのかそういうところを研究できればと思いますが。ただ、半田らしい街並みというイメージが蔵なのかなんなのかそういうところはまだわかりませんので、源平橋などは整備されまして、昭和調といいますかレトロな雰囲気があると思いますが、その辺りから区画整理の中にどう取り込めるのかを具体的に考えてもらった方がいいと思います。

○小出義一委員長

イメージについてはみなさん歴史を感じさせる景観づくりという要素だと思いますが、異論はありますか。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

街並みのイメージはそんなに違わないと思いますが、そういう意味で景観づくりについての研究は必要だとおもいます。それを通じて半田らしい街並みとは何か考えていけばいいと思います。

○新美保博委員

それは先の部分であって、何が一番大事かというところを商業を活性化して街をにぎやかとするというのは1つの手法です。あくまで手法なので、大方まとまったのは半田らしさの街づくりを探ろうとした訳じゃないのか。いろんな半田らしさを作ることではないのか。それを作ることに手法として区画整理もあるだろうし、再開発もある。委員それぞれが考える半田らしい街並みとはなにか、建設産業委員会が考える半田らしい街並みとはなにか、それができるようになる為にはどうするのか。それを進めるに辺り、今回の対象地区で区画整理があるのでまずはここから始めようということでスムーズに運ぶと思います。今日の話はできてると思うのですが、なかなかとりまとめができていないので、半田らしさをみんなでまとめたらどうでしょう。

○小出義一委員長

では簡単に半田らしさ、どんなふうイメージしているかを聞きましょうか。

【発言するものあり】

○中川健一委員

宿題でも出していますが、概ね共有できていると思います。それをJ R半田駅前を実現する際にどういう問題があるのか、景観条例、お金の問題などあると思いますが、そういうのをチェックしていき、他で参考になることを見に行くなどして、具体案を出していく、そういう話になると思うのですが。

○小出義一委員長

違う枠組みで取り組んでいるところを見て問題点や、成功の秘訣を探るのはいいと思います。インターネットで見ただけでは分からないこともあるかと思います。

○新美保博委員

できれば半田市はこういう街だ、こういうまちにしたいんだ、その為にここでこういうことがやりたい、という自分たちのストーリーがあった中で、視察をして、どうだったかを聞きたい。実際やってみてできなかったことや、思いがけず補助金の対象になった部分などあればそういうのを聞くなら、それも勉強だからいいと思う。でもこちら側に何も無いのに行ったら良かったね、で終わってしまうのであわてていかに形をつくってから行った方がいいと思う。

○中川健一委員

一度J R半田駅前を回って、具体的にああしたい、こうしたい、なんで今こうなっているのだろうというのを作ってみるのもいいかもしれないと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員

では次回の委員会の候補日を決めて、前日に視察をするという方向で行きたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

○小出義一委員長

暫く休憩します。

午後0時05分 休憩

午後0時07分 再開

○小出義一委員長

委員会を再開します。それでは次回の日程は8月20日火曜日17時からを対象地域の視察とし、市街地整備事務所集合とします。また、翌日8月21日水曜日10時から委員会を開催します。

協議題2. その他に移ります。(1) 事業評価についてですが、事業評価は進め方について現在政策調査研究プロジェクトにて協議の段階ですが、今年も事業評価を実施することが決定しています。事業評価を行うにあたり、建設産業委員会が分科会を設置し、事業評価を行うということによろしいでしょうか。

【「はい」との声あり】

○小出義一委員長

ご承認ありがとうございます。その他ございましたらお願いいたします。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

ないようですので本日予定しました議事は全て終了しました。本日の委員会はこれで終了します。ありがとうございました。

午後0時10分 閉会